

## 学校の在り方地区検討委員会（上北地区）

### 【第2回】概要

日時：令和8年1月27日（火）

9：30～12：00

場所：サン・ロイヤルとわだ

2階 孔雀の間

#### <出席者>

櫻田委員、野村委員、佐藤委員、丸井委員、小野委員、森田委員、瀧口委員、小原委員、松林委員、奈良岡委員、泉委員、志村委員、米沢委員、盛田委員、齊下委員、大鹿委員、小森委員（進行役）

#### 1 開会

#### 2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

#### 3 意見交換

##### （1）全日制課程の学校規模・配置について

##### ① 学校規模・配置

- 通学費の負担を軽減させるため、七戸町から十和田市や三沢市にある高校に通学する生徒のほとんどは保護者の送迎により通学している。このことから、小規模になったとしても七戸町のような地域に高校を残すべきである。小規模になった場合、総合学科のような科目選択ができる柔軟な教育課程や単位制を導入するなど、高校の魅力化を図らなければ、自宅から離れた高校を選ぶことになる。
- 職業教育を主とする専門学科では、各分野の専門的な学びを生かして就職や進学に対応している。そのような専門科目は残してほしい。
- 小学生、中学生の将来就きたい職業として、自分の身近にある職業を選択する傾向にあり、県立高校でも看護師や介護福祉士の国家資格等を取得できる高校、学科等を設置すべき。
- できる限り現在の学級数を維持してほしい。いじめや人間関係のトラブル等があったとき、1学年1学級ではクラス替えができず、進路変更をせざるを得ない生徒もいることから、少なくとも1学年2学級以上は必要。そのためにも少人数学級編制を検討してほしい。

- 総合学科では多様な生徒がクラスにしながら、多様な科目選択をできる教育課程を編成し、インクルーシブ教育に対応できている。  
普通科において、標準法の定数の中でインクルーシブ教育を進めていくことは困難であるため、この地域で対応できている総合学科は残すべき。多様な科目があり、多様な学びの中で自分の将来を考えていくということが大事である。
- 県教育委員会としての将来的なビジョンを示せないか。それを実現するために協力してほしいということであれば、もう少し議論もしやすいのではないか。  
高校の存続や通学手段に係る意見が多く出されているが、高校を集約することで通学に係る交通網も集約できるため、交通手段の課題を少しは解決できる。
- 1 学年 1 学級では、互いに切磋琢磨する場面が少ない。多様な他者との関わりが新しい自分の発見やコミュニケーション能力の向上につながる。様々な人と触れ合う経験から適切なパーソナルスペースの取り方を学んでいくことから 1 学年 2 学級以上は必要であり、学校規模の維持のためには統合することも必要。
- 通学しやすい場所に高校が配置されることが大切である。

## ② 学校規模・配置の効果・課題

### ◆ 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応

- 多くの中学生は普通科を志望する傾向にあり、①案では生徒の希望に応えることができないことから、職業教育を主とする専門学科を再編することについても検討が必要。
- 生徒数の減少を考慮すると学級減は仕方がない。ただ、統合するとなると、例えば三本木農業恵拓高校と十和田工業高校を統合して、キャンパス制とするのも一つの案ではあるが、校長が 1 人になるだけで、これまでと同様の教育活動が別々の場所で行われるだけある。また、三沢高校と三沢商業高校の統合や農業・工業・商業高校の統合も考えられるが、交通の便を考えると統合校の設置場所を決めることは困難である。小規模化したとしても、現在の所在地に高校はあった方がよい。更に、これまでの高校再編の経緯も踏まえる必要がある。そのような理由から①案がよい。
- 七戸高校が 2 学級になったとしても総合学科の理念を踏まえた特色ある教育課程を編成できる体制を維持してほしい。

○ 総合学科は、多様な生徒がホームルーム単位で高校生活を送ることになるが、2年生、3年生では系列を軸として自由に科目を選択する。その中で自分の進路を考えることができるため、教育改革の方向性に合致している。都市部の総合学科では様々な外部講師による教育活動が行われている。現在の七戸高校においても外部講師を活用した教育活動が行われているが、2学級になったとき、総合学科としての魅力ある取組が減っていってしまうため、維持していただきたい。

○ 5学級削減した場合、志願倍率は1倍を超えるのか。

→ (事務局) 生徒数の減少や各地区の高校進学率、他地区への流出入等を踏まえて削減学級数を算出しており、倍率を想定して削減学級減を算出していない。

○ 今回示された案では、第1期実施計画において農業科と普通科を併置する形で統合された三本木農業恵拓高校の普通科1学級を削減している。その後、さらに普通科を削減した場合、三本木農業恵拓高校に普通科がなくなり、農業高校に戻ることになる。県が将来的なビジョンをもう少し具体的に示さなければ、前回の統合によって設置された普通科がなくなることになる。各校を1学級ずつ削減することも一つの案としてはあるが、中学校卒業予定者数が減少する中、もっと大きな視点で高校再編を行わなければいけない時期に来ていると認識すべきあり、統合することも必要。

#### ◆ 学級減（職業学科の精選と普通科の学級減）で対応

○ 国や県の考え方に沿った案だと思う。エッセンシャルワーカーはAIで代替しにくい分野だと言われており、そういった人財の育成に力を入れることは必要である。

○ 国のグランドデザインの骨子にある専門高校の機能強化・高度化、普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化を踏まえて、現実的な対応は②案である。職業教育を主とする専門学科は、地域の人財育成の観点からも必要である。また、1学科1学級で教育活動を行っていることから学科の集約は困難である。

◆ 学級減（百石高校を除く）で対応

- おいらせ町のこどもの数は一定数を維持しているが、三八地区への流出が課題である。令和8年3月中学校等卒業予定者の進路志望状況第2次調査では百石高校普通科の倍率が0.5倍を超えており、仮に普通科が2学級から1学級となった場合、希望する生徒が入学できない状況となる。また、おいらせ町の生徒は三沢市内の高校へ進学する生徒も多く、三沢高校と三沢商業高校の学級減はおいらせ町の子どもたちに影響を及ぼすことになる。このような地域の様々な事情を考慮し、百石高校の学校規模を維持してほしい。

仮に、志願倍率が0.5倍を下回るのであれば、当然、学級減については検討する必要がある、その場合は、自宅の近くの高校にしか通えない生徒に対する通学支援をどうするか、大きな課題として残る。

(2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

- 生徒の多様なニーズ等に応えるため、定時制課程は残さなければならない。
- 通信制課程を希望する生徒数は増加傾向にある。上北地区の生徒が通信制課程を選択した場合、八戸市への移動が必要となることから、上北地区にも通信制課程の設置の検討をしてほしい。
- 多様な生徒への教育のため、通信制課程を設置すべきである。  
定時制課程や通信制課程、通級による指導の実施は、様々な子どもたちが一緒に学べるようにするための方策である。例えば通級による指導であれば、教員が研修することによって、置き去りにされてきたかもしれない子どもたちを救うことができる。このような考え方は、教職員だけでなく県民も理解しないと成功に至らず、困難を抱える子どもが増えるだけで終わってしまうため、県民への理解促進も併せてお願いしたい。
- 生徒の多様なニーズや特別な支援を必要とする生徒に対応していく必要がある。3年で卒業する仕組みや、生徒のライフスタイルに合わせて授業を受けることができれば、より多様なニーズに対応した定時制課程になる。

- 中学校で不登校を経験した生徒が他地区の通信制課程に通学している。また、高校で不登校になった生徒や進路変更を希望する生徒の転校先として通信制課程は重要であることから、上北地区にも通信制課程は必要。

仮に設置するとなった場合、スクーリングを考慮して、交通の便がよい野辺地高校に設置するのがよいと考える。

野辺地高校は校舎の一部を改修しており使用不可のフロアがある。このフロアの使用の可否について伺いたい。

- (事務局) 現在使用できないフロアは、校舎全体の躯体の健全度を考慮して使用不可としている。通信制課程を設置する場合、現在使用している教室等で対応できるかの検討が必要である。

- 必要であれば新たに施設整備を行うべき。

### (3) その他の意見

- 実際に教育活動を行う高校から意見を聴取しながら案を作成してほしい。

- 中学生は柔軟な教育課程を希望しているが、実際は教育課程が固定化されている普通科を選択する。このような乖離が生まれることで不登校等の問題につながっている。普通科においても不登校生徒や進路変更へ対応するため、柔軟な教育課程の編成や文理融合の学びが必要である。

- 他地区への流出を食い止めるには、高校の魅力化を一層進めることが必要である。そのためには、校長の権限を大きくし、校長の判断でより柔軟な教育課程の編成等により魅力向上を図るべき。

- 上北地区から他地区への流出が非常に多いことから、上北地区だけでなく三八地区も含めて、または県全体で削減学級数を検討してほしい。

- (事務局) 地区ごとの削減学級数については、近年の実績を踏まえ、他地区等との流出入を推計した上で、その地区の県立高校を志望する生徒が入学できないという状況にならないよう算出している。

- 自宅から通学できる高校でも、生徒が遠隔授業等の多様な教育を受けられる環境があるとよい。また、生徒の多様なニーズに応えるためには教職員数は必要である。そのような中で、学級減するよりも少人数学級編制を導入することで教職員数の削減がおさえられる。県費を投入してでも教職員の確保が必要。

- 学級減と少人数学級編制の実施による対応は可能か。

- (事務局) 現状でも農業科、工業科等で35人学級編制を実施しているが、本委員会においては5学級を減ずる場合の学校規模・配置について御意見をいただきたい。

- こどもの数が減少している中において、学級減等を実施するのは仕方がないが、少人数学級編制を導入するための最大限の努力は必要。
- 普通科を選ぶ中学生が多いことから、普通科がより魅力ある高校になれば、三八地区や私立高校へ流出することは避けられない。生徒に対するきめ細かな指導を行うためにも少人数学級編制を実施し、普通科の魅力向上を図ってほしい。
- 少人数学級編制の実施をお願いしたい。また、現在の学校配置の維持、交通手段の確保、通学支援の検討や奨学金の拡充も必要。
- 中学生は高校入学がゴールではない。将来の夢の実現に向けて高校を選択している。夢に近付けるような教育課程、あるいは分野の学びができるよう地域の実情を考慮して、青森県ならではの高校教育を考えてほしい。
- 職業教育を主とする専門学科は、1学科1学級であることから、人間関係が固定化されてしまうため、授業とホームルームを別の集団にするなどの柔軟性が必要と考える。普通科も同様であり、1学年1学級では人間関係でうまくいかない生徒がたくさん出てくるのが危惧される。

#### 4 閉会